

## 基準 9. 教育研究環境

## 9-1. 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

## (1) 事実の説明（現状）

《9-1の視点》

## 9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

- ・ 本学のキャンパスは滝春キャンパスと、隣接した位置にある白水キャンパスの2ヶ所に配置されている。
- ・ 現在の利用形態は、工学部機械工学科、ロボティクス学科、電気電子工学科及び情報学部情報学科が滝春キャンパスを利用し、工学部建築学科及び都市環境デザイン学科が白水キャンパスを主に利用している。
- ・ 本学の主要な施設概要は、表9-1-1から表9-1-4のとおりである。

表9-1-1 滝春キャンパス建物

建物名称	延べ面積 (㎡)	階数	主要施設
A棟	14,366.17	1-4	学長室、理事長室、大学事務室、法人事務室、経営企画本部事務室 工学部（機械工学科、電気電子工学科） 情報学部教員研究室及び標準実験室 教養部教員研究室及びセミナー室 大学院院生研究室・講義室・ゼミ室 学生ホール・学生自習室・談話室・ラウンジ 会議室・保健室・非常勤講師室 防災センター室
B棟	7,508.72	4	講義室・コンピュータ演習室 学生自習室・学生食堂・学生ホール・売店
C棟	484.59	2	講義室・学生食堂
D棟	6,379.67	3	工学部及び情報学部実験室・製図室・製図講義室 情報学部実習スタジオ 教養部教員研究室・学生実験室（物理・化学） 創造製作センター・アトリエ
E棟	1,883.13	3	情報学部講義演習室・共同研究実験室 特任教員室・同窓会事務室
F棟	2,048.80	3	講義室・工学部実習室（建築学科）
G棟	1,000.56	2	産学連携共同研究センター・工学部実験室
M棟	3,589.94	5	図書館・大会議室

大同工業大学

建物名称	延べ面積 (㎡)	階数	主要施設
N棟	3,387.77	2	体育館 (メインアリーナ、サブアリーナ)
P棟	409.77	3	学生ロッカー室、産学連携共同実験室
Q棟	804.00	3	クラブハウス棟 (部室、大学祭実行委員会室)
R棟	427.45	2	クラブハウス棟 (部室)
S棟	5,780.69	6	講義室・学習支援センター 工学部 (ロボティクス学科) 教員研究室・標準実験室、大型実験室及び工学実験室、ロボット工房、電気工房 情報学科メディアデザインラボ・会議室

表9-1-2 白水キャンパス建物

建物名称	延べ面積 (㎡)	階数	主要施設
4号館	3,782.52	4	講義室・工学部 (建築学科、都市環境デザイン学科) 教員研究室及び標準実験室・実習室 大学院院生研究室・事務室・会議室
8号館	2,540.92	5	講義室・工学部 (建築学科、都市環境デザイン学科) 標準実験室・実験室
実験棟	408.29	2	実験室・大学院講義室・会議室
学生ホール棟	809.21	2	学生ホール 製図室

表9-1-3 木曾駒ゼミナーハウス

名称	延べ面積 (㎡)	室数	施設内容	所在地
ゼミナーハウス	443.04	7	食堂兼研修室・・・1室 宿泊室・・・・・・6室	長野県木曾郡 木曾福島町正ノ平127

表9-1-4 屋外運動場

名称	延べ面積 (㎡)	所在地	交通
滝春グラウンド	16,061.85	名古屋市南区滝春町10-3	徒歩 3分
元浜グラウンド	29,076.97	東海市元浜町12-6	バス 15分
東小山グラウンド	21,971.00	知多市金沢字東小山10、17	バス 35分

- ・校地・校舎については、表9-1-5のと通りの面積を有している。

表9-1-5 大学設置基準との校地・校舎の比較

校地面積	設置基準上必要校地面積	校舎面積	設置基準上必要校舎面積
125,218 m <sup>2</sup>	29,000 m <sup>2</sup>	56,798 m <sup>2</sup>	36,165 m <sup>2</sup>

以下に、主要施設の概要を示す。

### 1) 講義室・演習室

- ・本学の講義室は、授業収容人数が50～100人の小講義室を29室、120～180人の中講義室を13室、200人以上の大講義室を3室有している。
- ・演習室は、パソコンを配置した情報演習室14室、製図演習室2室を有している。
- ・講義室・演習室の曜日ごとの利用状況は、表9-1-6のとおりである。

表9-1-6 平成18年度 講義室・演習室利用状況 (単位：%)

曜日	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
講義室	60	41	58	63	64	73	46	51	41	57
演習室	56	16	53	63	66	50	28	56	44	53

### 2) 情報サービス施設

- ・教育用のパソコンは、授業用としてコンピュータ演習室に918台、学生の自習用として自習室や学生ホール等に86台設置し、情報機器を活用した効果的な教育に貢献している。
- ・自習室のパソコンは、原則8時30分より21時まで開放し、インターネット、メールの自由利用も含め学生の自学自習の機会拡大を図っている。また、自習室のパソコンが不足するときは、授業がない演習室も一部開放し、学生の勉学に供している。
- ・教室・コンピュータ演習室には、VTR、ビデオプロジェクター及び教材提示装置等のマルチメディア装置を備えている。
- ・学部学生を対象とした演習室等の教育環境設備の充実を図ると共に、大学院学生の高度な教育・研究環境充実を実現するために、大学院学生には一人に1台のパソコンを貸与し、自主的な教育・研究への支援を実現している。
- ・教育用の据え付けのパソコンとは別に、各講義室、各研究室、各実験室等でパソコンが利用できるように、LAN接続端子を約640箇所に設置している。

### 3) 研究施設

- ・本学は、教員一人あたり居室である研究室以外に、卒業研究指導も含めた研究に使用する標準実験室及び大型実験室を備えている。
- ・本学は、物理・化学分析機器及び強度試験機を備えた共同利用実験室を多数有している。

- ・特別な研究施設としては、産学連携共同研究センターにNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）関連の「燃料電池研究センター」及び「におい研究ラボラトリー」等の研究ラボラトリーを20以上有している。また、企業等との共同研究のために「産学連携共同実験室」を複数室備えている。

#### 4) 図書館

- ・本学の図書館は、学術情報基盤としての大学図書館として学生の視点に立った図書館サービスを心がけている。
- ・蔵書は、図書が和・洋合わせ約212,000冊、学術雑誌2,145種、視聴覚資料（DVD・CD-ROM・ビデオテープ・レーザーディスク・CD等）3,131点を所蔵している。
- ・資料の収集方針は、カリキュラムとリンクした資料を中心として、学生としての豊かな教養を十分に身につけることができるよう配慮している。
- ・図書資料の閲覧方法は、利用者が図書資料を直接確認することができる全面開架方式を採用している。
- ・テーマを絞った内容については、効率的に学習に専念できるよう「季節毎テーマ」、「就職・資格」コーナー等を設置して、利用者サービスの向上を図っている。
- ・資料の管理は、全てコンピュータ管理されており、情報検索は、学内外のコンピュータや携帯電話からも、蔵書検索・新着情報・貸出情報・貸出予約等にアクセスできる。
- ・図書館の利用者状況は、表9-1-7のとおりである。

表9-1-7 平成18年度 図書館の利用者（延べ人数）状況 (単位：人)

月	午前	午後	夜間	月計
4	5,008	4,826	1,226	11,060
5	4,775	5,275	1,358	11,408
6	5,866	6,080	2,082	14,028
7	6,468	6,810	2,119	15,397
8	1,384	1,499	633	3,516
9	1,929	2,082	678	4,689
10	4,509	4,979	1,617	11,105
11	4,536	4,757	1,494	10,787
12	3,503	4,038	1,233	8,774
1	4,620	4,560	1,453	10,633
2	762	1,146	491	2,399
3	1,094	1,266	329	2,689
年間計	44,454	47,318	14,713	106,485

## 5) 体育施設

- ・体育館は、滝春キャンパス内に有り、2階建・延べ3, 423㎡の面積を有し、ハンドボール・バレーボール・バスケットボールができるメインアリーナ、柔剣道ができるサブアリーナ、他にアスレチックマシンを設置したトレーニングコーナー、卓球場、シャワー室、トイレ、更衣室を完備している。
- ・屋外運動場は、滝春グラウンドでは野球・サッカー等ができる多目的グラウンドとテニスコート3面を有している。元浜グラウンドは、硬式野球場とサッカー場を有している。

## 6) 自習環境及び学生憩いの施設

- ・学生の自学自習を支援するため、滝春キャンパスの講義棟（B棟及びF棟）には合計3ヶ所、A棟の2階にはパソコンを配置した自習室を設置している。また、図書館の各閲覧室は、自習の場として利用されている。
- ・更に、自習及び憩いの場としての学生ホールを、滝春キャンパスの講義棟（B棟）に1ヶ所、A棟に2ヶ所設置している。また、白水キャンパスでは学生ホール棟を設置している。
- ・滝春キャンパスの講義棟（B棟）のピロティ部分及び中庭広場等に、白水キャンパスの学生ホールに隣接したウッドデッキテラスに、温もりのある木製のテーブル、ベンチを設置し、学生の開放的な憩いの場として提供している。

## 《9-1の視点》

## 9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

- ・施設設備機器の資産管理総括は、総務部管財室が実施しているが、各研究機器等の使用・保守管理は、使用部署の担当教員が実施し運営している。
- ・管財室は、教員及び各事務部門と連携して、施設設備機器における改修・改善・メンテナンス等を担当し、施設設備機器の維持管理に努めている。
- ・講義室及びコンピュータ演習室の管理は、教務室が当たり、授業カリキュラム・時間割表等に基づき利用管理を行い、コンピュータを除く講義室内の機器備品管理を合わせて実施し、円滑に授業運営ができるよう努めている。
- ・また、毎日外注業者による清掃が行われ快適な環境を維持している。
- ・情報機器については、情報教育センター及び通信・情報システム室が、保守・稼働管理を実施している。
- ・情報教育センターから、各パソコンにメールにて更新ソフトを配信し、搭載できるシステムを平成16年に導入したことにより、迅速にパソコンソフトの更新が可能になったことで、パソコンソフトの進歩に対応して、授業ができるようになった。
- ・共同利用実験室については、技能を持ったオペレーターを配置し、保守・稼働管理を実施している。
- ・図書館の管理は、図書館事務室を館内に設け、室員が利用者の便宜を図っている。また、開館時間は、8時45分から21時までと講義時間終了後も学生が勉学出来る時間設定になっている。

- ・ 体育館の運営管理は、学生室が担当し、室員が交代で勤務し8時45分から20時45分まで開館し、学部生、院生、教員及び事務職員のみならず学外にも開放している。また、課外活動等の利用のため休日開放も必要に応じて実施している。

## (2) 9-1の自己評価

- ・ 大学設置基準を上回る校地、校舎を有し、その施設・設備は現在の教育研究の運営に十分なものであると判断している。
- ・ 平成12年には、滝春キャンパスに研究室・実験室・本部事務室等の総合棟（A棟）、講義室・演習室・学生食堂等の学生棟（B棟）、300人収容の大講義室ゴビーホール（C棟）、大型設備実験室・実習スタジオ等の実験棟（D棟）が完成し、快適で充実した教育を受ける環境が整った。
- ・ 情報学部新設時には、E棟を改装し情報演習室を作り授業に備え、ロボティクス学科新設時には、S棟を建設し、合わせて学習支援のための学習室を増設し、学生支援強化を図った。
- ・ 白水キャンパスでは、耐震性能向上整備、標準実験室の整備、エレベータ設置、学生ホール改修など積極的に推進し、安全性や利便性の効果が得られている。

## (2) 9-1の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 平成20年度の学科改組に向けて、実験室・演習室等の整備を検討する。

## 9-2. 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

### (1) 事実の説明（現状）

《9-2の視点》

#### 9-2-① 施設設備の安全性が確保されているか。

- ・ 本学の施設は、滝春キャンパスの校舎を新築、白水キャンパスの校舎（築後20～30年）の耐震補強工事を実施するなど、十分に安心して利用できる教育環境になっている。
- ・ 環境衛生管理・維持については、飲料水の残留塩素測定を毎日、貯水槽清掃を年1回行い、行政（保健所）の検査を受けるなど水質の安全性の確認に努めている。
- ・ 滝春キャンパスの校舎（A棟、B棟）は、特定建築物に指定されているため、温度・相対湿度・浮遊粉塵量・一酸化炭素濃度・二酸化炭素濃度等の所定の環境測定を行い、行政へ報告している。
- ・ 受電設備、消防設備（消火器・避難器具等）、エレベータ等の保守管理は、電気事業法・消防法・建築基準法等各定めるところに基づき定期点検を行い、災害の未然防止・早期発見に努めている。
- ・ その他施設設備の修繕については、点検結果及び各部署からの要望に対し、総務部管財室でその都度又は年次計画に織り込み対処している。

## 《9-2の視点》

## 9-2-② 教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

- ・滝春キャンパスでは、アメニティの改善として、平成12年の新キャンパス建設時における緑化計画に基づき整備してきた。また、中庭にはテーブル・ベンチを多数配置し、うるおい感のある憩いの場を形成している。
- ・平成18年3月のロボティクス学科関連新棟新築と同時に、学生が自由に利用できるコンピュータ自習室を増設し、近年の情報化時代に対応している。
- ・厚生施設の中核的な地位を占める学生用食堂・ホールは、学生数の多い滝春キャンパスに設けられ、利用者の数も多く、一時的には人で溢れる状況である。
- ・また、白水キャンパスの学生ホールは狭いため、平成18年3月にホール内のレイアウト改善、ホールに隣接した外部にウッドデッキテラスを設置し学生の憩いの場を増やした。
- ・学外の施設としては、長野県木曾福島町にゼミナーハウス（延べ443㎡、20人収容）を有し、平成9年に大規模改修を行い、特に1年次生と指導教員とのふれあいの場、また、宿泊研修の場として利用されている。
- ・滝春キャンパスでは、平成12年新キャンパス建設時に新築した校舎及び平成18年のロボティクス学科関連で新築した校舎には、障害者用トイレ、エレベータ、スロープ等、バリアフリー化を行なった。特に各校舎間は、回廊・スロープで接続され、車椅子で校舎間を移動できるよう配慮している。
- ・白水キャンパスの校舎では、平成18年7月にエレベータ及び障害者用トイレの設置を行い、大学全体としてバリアフリー化の改善は進んだ。

**(2) 9-2の自己評価**

- ・各校舎の耐震上の問題を解消するために、校舎の新築、耐震補強工事等を実施してきたことで、施設の安全性は格段に向上した。
- ・施設設備の維持管理（環境維持管理、保守管理）については法に則り実施しており、現状では特に大きな問題は発生していない。
- ・エレベータ及び障害者トイレを設置するなどにより、バリアフリー化も進んできた。
- ・これらの施設整備を推進してきたことで、学生、教員及び事務職員等が安心して生活できる教育環境が整ってきたと判断している。

**(3) 9-2の改善・向上方策（将来計画）**

- ・バリアフリー化については、より適切なバリアフリー化を目指して検討・改善を実施する。
- ・環境衛生管理については、法遵守に加え更に細かな管理ができるよう管理項目の再検討を実施する。
- ・より安全な施設設備を目指し、実験室等の安全点検を充実させる。

**【基準9の自己評価】**

- ・教育研究活動を推進するために、必要な施設設備が適切に整備され活用されている。
- ・施設設備は、各担当部署が法に則り適切に維持管理を実施している。
- ・耐震上の問題があるところは、新築や耐震補強工事等を実施することで安全性は非常に向上した。
- ・バリアフリー化も着実に進めている。

**【基準9の改善・向上方策（将来計画）】**

- ・学科改組に対応して、必要な施設設備の設置を検討し実施する。
- ・より適切なバリアフリー化を検討し、より安全で快適な教育環境を目指して努力していく。
- ・情報機器を使用した情報サービスレベルの進歩は目覚しく、対応すべく平成20年度に向けて新システム移行を計画している。
- ・安全で統制が取れたLAN構築を目指し、セキュリティポリシーの策定及びそれに則した運用ルールの制定・設備の強化に努力する。